

HPVワクチンの安全性とは、科学を隠蔽することにより保たれる幻想か？

ノーマ・エリクソン

速報：2016年1月14日、シン・ハン・リー医師は、世界保健機関事務局長マーガレット・チャン、GACVS（ワクチンの安全性に関する諮問委員会）の役員、CDC（疾病管理予防センター）、厚生労働省等に、公開質問状を送付した。質問状では、HPVワクチンが安全であるという幻想を保つために、それを否定する有効なエビデンスがあるにもかかわらず、データの不正操作および科学の隠蔽をしたこと訴えている。

リー医師の質問状によれば、ニュージーランドにおいて請求された情報公開により最近明らかにされた一連の電子メールにより、ワクチンの安全性に関する諮問委員会（GACVS）の委員長ロバート・プレス氏、厚生労働省の難波江功二氏、CDCのメリンダ・ワートン氏、ニュージーランド・オークランド大学のヘレン・ペトウシス・ハリス氏、およびその他（WHOの職員など）が、2014年2月26日の東京における公開ヒアリングの前、その間およびその後に、ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの安全性に関する日本専門家会議を故意に誤った方向に誘導する計画に積極的に関わった可能性が明らかとなった。

質問状によれば、HPV ワクチンの安全性に関して日本専門家会議にアドバイスする責任を負うWHO 職員および政府職員らは、2014年2月26日の東京における公開ヒアリングの前に、HPVワクチンが他のワクチンと比較して、特に注射部位において腫瘍壊死因子（TNF）などのサイトカインを増加させるという科学的エビデンスを専門家の1人が提示したことを知っていたことを、入手した上記電子メールのやりとりは明確に示しているという。にもかかわらず、公開ヒアリングにおいて、この情報は隠蔽された。

もちろん、この科学データは上記のすべてのメンバーに知らされていたが、2014年3月12日に発行されたHPVワクチンの安全性に関するGACVSの声明からも除外されている。このGACVS 声明が、現在、世界中の医療官庁職員、政策立案者、医療従事者に、HPV ワクチンの安全性について懸念することは何もないことを保証するために使用されており、それは、医療消費者にとって不運なことである。

リー医師の質問状の結びでは、なぜ他のワクチンよりも HPV ワクチンを接種し

た人々においてより頻繁に重篤な副反応が起こるのか、その結果一定の素質を持つ人々が説明不能な突然死を起こすのかについて説明する機序が少なくとも1つ知られていることを明言している。この部分が、「専門家」が隠蔽する必要があるとみなした情報の一部であると思われる。

リー医師は、

「私の質問状において名指しされた人々、およびHPVワクチンを継続するために安全性に関する妥当な懸念を盲目的に否定する人々は、彼らの言動を釈明する義務がある。科学的エビデンスを意図的に無視することに対して弁解の余地はない。公衆衛生の利益を犠牲にして、世界のワクチン政策立案者を誤った認識に導くことに対して弁解の余地はない。そのような公衆の信頼を露骨に侵害することに対して弁解の余地はない。」と述べている。